

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度 武雄市立武内小学校 学校評価結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

<b>1 前年度 評価結果の概要</b>	<p>1.学力向上においては、校内研究での全員授業、官民一体型学校公開等を通して、ICT活用教育にこれまで力を入れてきた。その結果、児童や教職員のICTスキルは向上した。一人一人の学力向上については、今後も取り組む必要がある。来年度は、「学校生活での規律・規範意識の向上」と、授業の改善に力点を置き、学力向上を目指す。そのためには、校内研究を中心に据え、武内小スタンダードの見直しや個々の教職員の授業づくりの共有化など、教職員が一体となって学力を積み上げていく体制づくりをする。</p> <p>2.来年度、特別支援学級（知的）が新設され、入級児童も増えることから、特別支援に関する教職員の専門性と意識を向上させるために、研修や特別支援学級の校内授業参観などを行っていく。通常学級に在籍している困り感のある児童に対応するためにも、板書や話し合いをさせるための発問（問い）等のユニバーサルデザインに関する研修を深めていく。</p>
----------------------	---

**楽しく学ぶ。みんなで学ぶ。深く学ぶ。～最適な教育環境を創り、個の力と集団の力を生かして子どもの姿で成果を発揮する～**

<b>3 本年度の重点目標</b>	<p>① 校内研究等を通して、新学習指導要領の実施における深い学びを創造する</p> <p>② 体育的行事や特別活動等を通して、望ましい生活習慣や自他に対する肯定感を育む</p> <p>③ 働き方改革の推進を通して、教職員の心身の健康増進と、児童と向き合う時間確保をめざす</p>
-------------------	--

**4 重点取組内容・成果指標** **5 最終評価**

重点取組	評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
					進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言		
					<b>(1)共通評価項目</b>							
●学力の向上	●「深い学び」の実現のために、児童が考えを深めながら表現できる授業を創造し、一人一人の児童が考えを深めながら表現する姿をめざしていく。	○ICT活用による指導力を向上させるために、花まるタイム、なぞべー授業、研究授業、英語活動、プログラミング学習、NIE等で効果的な活用方法を追究する	●学習者同士や指導者と話し合う活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができていると回答とする児童を80%以上にする。	・日々の授業や研究授業で、学習の振り返りを書かせ、話し合いの前後での考えの広がりや深まりを実感させる。	C	・フローチャートを用いたプログラミングの授業を高学年で行い、一人一人の児童が考えを深めながら表現する様子が見られた。 ・今後、提案授業で出てきた課題をもとに各学級で児童が考えを深めながら表現できる授業を実施していく。	B	・授業で自分の考えを表現したり、友だちの考えを聞いたことがあると答えた児童は、87%であったが、振り返りができていると答えた児童は72%であった。児童が学びを深めたことを実感できるように、振り返りの取り組みや授業づくりのさらなる工夫が必要である。	B	・今後表現する力は、ますます必要になる。「話す力」「書く力」を高めてほしい。 ・県学状の結果から算数に力を注いでほしい。 ・教育の基盤は、読・書・算、規範、約束を守るなど人間作りなど更に取り組んでほしい。	技部	
		○ICTを活用することで、教科等の指導力が向上したと回答する教員を85%以上にする。	・ICTスキルタイム（年4回）やICT職員研修を実施し、ICTの効果的な活用について「先生やる気タイム」を実施し指導者の授業力向上をめざす。	A	・ICTスキルタイムについては計画通り実施することができ、プログラミング研修についても講師を招聘し理解を深めることができた。 ・「先生やる気タイム」も継続して取り組み、教師の授業力向上を図っていく。	A	・ICTを活用することで教科等の指導力が向上したと回答する教員は92%であった。特にICTスキルタイムにおいてプロゼミの活用ができたことで下学年にもプログラミングの楽しさを味わわせることができた。Chromebookの活用についても教員相互に情報を共有する姿も見られ、前向きに取り組んでいた。	A	・花まるに参加し、子どもたちの集中する姿や元気な声で発表する姿にやる気を感じた。 ・教員によるICT教育の習熟度に差が生まれないように、教員の情報交換、技術向上を。	A	技部	
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成を図るために、学校生活5か条を柱とし、あいさつ、言葉遣い、廊下歩行、履物の揃え等、児童への個別指導を行っている。	○運動習慣の改善や保健指導の充実を図るために、体育的行事やみんなで遊ぶ日を設定したり、ブラッシング指導、性教育、食育等を通して健康づくりを行っている。	●学校生活5か条のそれぞれの項目について守れていると回答する児童を75%以上にする。	・学校生活5か条の指導を全校朝会や集団下校時に行う。 ・守れていない児童への指導の仕方について、全職員で共通理解を図り、指導にあたるようにする。	B	・廊下歩行や履物揃え等、課題が見えたので、全校朝会の生活のめあての前に学校生活5か条を指導することで、意識化を図るようにする。 ・守れていない児童への指導の仕方については全職員で共通理解を図り、指導にあたることで、気になることがあればその都度、共通理解を図り、継続して行く。	B	・学校生活5か条の廊下歩行の項目のみ、守れていると回答する児童が75%を下回ったが、残りの4項目については、75%を上回った。児童が、廊下歩行を意識することができるように、毎月の生活のめあてに取り入れるなど工夫が必要。	B	・職員だけが指導するのではなく、上級生から下級生への指導も、そのためには上級生としての意識向上。手本になる。 ・自ら元気に挨拶できる子どもに育ってほしい。	体部	
		○運動習慣の改善や保健指導の充実を図るために、体育的行事やみんなで遊ぶ日を設定したり、ブラッシング指導、性教育、食育等を通して健康づくりを行っている。	●自分や友達を大切にしながら、学級活動や委員会活動、縦割り班活動に積極的に取り組んでいると回答をする児童を80%以上にする。	・昼休みに縄跳び・マラソン仲間やスポーツサーキット、みんなで遊ぶの日は設定し、実施する。 ・担任と養護教諭が連携し、年に1回以上、保健指導を行う。	B	・各学級でみんなで遊ぶの日は設定し、実施することができた。 ・1年生は養護教諭と連携し、ブラッシング指導を行うことができた。2年生以上は9月以降、実施予定である。	A	・自主的に健康な体づくりに取り組んでいると回答した児童が90%以上だった。 ・授業や集会等で、担任と養護教諭が連携し、全学年でブラッシング指導や性教育、食育等の指導をすることができた。	A	・子どもたちが、元気で明るく、仲良く取り組んでいる姿を見ている。 ・体育館、グラウンド、わんぱく広場で友達と一緒に走り回って遊ぶ子どもたちの笑顔が生き生きしていた。	A	体部
●心の教育	●いじめ0をめざすために、いじめの未然防止、早期発見、早期対応体制の充実を図り、学級経営を通して一人一人の児童の思いに寄り添い、学級としての解決策を生み出していく。	○児童への指導や支援、保護者への対応、地域への協力や発信を充実させるために、職員間での報連相や分担等、組織的な取組を行っている。	●自分や友達を大切にしながら、学級活動や委員会活動、縦割り班活動に積極的に取り組んでいると回答をする児童を80%以上にする。	・青空教室やクリーンタイムの振り返りで児童相互の認め合いができるように「今日のMVP」を決めるようにする。	B	・クリーンタイムの時間を例年より5分早めたことで、落ち着いて振り返りを行えるようになった。「今日のMVP」の紹介は6年生が中心になっているので、どんな人を見つけたのか提示したり、発表の型を示したりすることで、下級生も発表できるようにする。	A	・児童アンケートで自分や友達を大切にしながら、学級活動や委員会活動、縦割り班活動に積極的に取り組んでいると答えた児童が92.8%いた。振り返りの方法を変更したこと、MVPの発表の型を提示したこと、どの学年も進んで友達によさを見つけたことができた。	A	・他の学校と比べても、縦割り活動が充実しており、違う学年との交流は全学年にとって意義がある。 ・同級生だけでなく、学年関係なく一緒に遊ぶことができ、上級生としての自覚や優しさ、安心して遊ぶ下級生の姿を見ることができた。	A	心部
		○児童への指導や支援、保護者への対応、地域への協力や発信を充実させるために、職員間での報連相や分担等、組織的な取組を行っている。	●いじめ根絶のために、学級や学校での取組、事案対応、再発防止に組織的に対応ができていると回答する教員を85%以上にする。	・教育相談期間後の共通理解の場を設け、各学級の気になる児童への対応・支援を全職員で行うようにする。	B	・教育相談期間後の共通理解の時間をとったことで、気になる子を全職員で支援し、統一した指導を行うことができた。2学期の教育相談期間も引き続き共通理解の場を設ける。	A	・教職員アンケートでいじめ根絶のために、学級や学校での取組、事案対応、再発防止に組織的に対応ができているという回答が100%であった。今後も、どの行為がいじめになるかという認識を高め、アンテナを張る必要がある。	A	・学校での取り組み満点とした。 ・地域、家庭内での引きこもり、仲間外し等ないように引き続きお願いしたい。 ・相手に対して言った言葉が不快に感じているときは、きちんと伝えている。	A	心部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○児童への指導や支援、保護者への対応、地域への協力や発信を充実させるために、職員間での報連相や分担等、組織的な取組を行っている。	○児童への指導や支援、保護者への対応、地域への協力や発信を充実させるために、職員間での報連相や分担等、組織的な取組を行っている。	●個人や学校として業務改善に取り組み、教育委員会規則に掲げる時間外下校等時間の上限（45時間/月）を下回った教職員を80%以上にする。	・各自週1回の定時退勤日の励行 ・毎日18:45までの退勤を目標にする。	B	・18:45までの退勤を全職員が意識しているため、自発的勤務時間は6月が平均46.2h/月だった。しかし、定時退勤は約半数の職員が実施できていない状況から、定時退勤日ボードを設置し、何曜日にも帰るかボードに名前を提示することで意識化を図る。	B	・全職員の4～12月の時間外勤務時間の平均は35時間、延べ人数の月毎の達成率は75%である。教職員の意識及び実施は54%で更なる実質的な業務改善が必要である。	A	・先生方の日々の業務、子どもたちへの指導には敬意を表します。自らの体力的精神的疲れを癒す時間を作ってください。 ・様々な文書作成を軽減できれば作業を減らせるのではないだろうか。	A	管理職
		○児童への指導や支援、保護者への対応、地域への協力や発信を充実させるために、職員間での報連相や分担等、組織的な取組を行っている。	○児童への指導や支援、保護者への対応、地域への協力や発信を充実させるために、職員間での報連相や分担等、組織的な取組を行っている。	・担任が悩みを一人で抱え込まないよう報告・連絡・相談を徹底し、組織的に対応する。	B	・今年度はコロナ感染の影響で、これまでの行事の見直しを行った。進め方を検討したりと各プロジェクトで随時話し合いが行われている。今後も各部署の自主的な活動に期待したい。	A	・児童への指導や支援、保護者への対応について、組織的対応ができていると回答する教員が85%、保護者が87%で数値目標を達成した。今後もチーム武内を推進する。	A	・コロナ禍でも、オンラインなどで何とか行事を行っていたことに感謝します。 ・これまで通り、個別に対応が必要な案件についてはしっかりとお願いします。	A	管理職

重点取組	評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
					進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
					<b>(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目</b>						
◎志を高める教育	◎特別支援学級（知的、自閉・情緒）の児童だけでなく、全校児童が、「わかった！できた！うれしかった！」と言える取組を行っている。	○キャリアパスポートの年間振り返りで低学年は「はじめてのことにチャレンジ・かまた、中高学年は「将来の夢や目標・」の項目で、肯定的な回答をする児童を80%以上にする。	・「チャレンジすること」「夢・目標をもつ」ことが自分を成長させることをクラスや集会で意識して伝える。	B	・キャリアパスポートを作成し、全学年、理解度に応じて「チャレンジすること」「夢・目標をもつこと」の意義について児童に伝えることができた。 ・特に高学年は、高学年集会を開き、自分の成長につながる心に響く話をすることができた。	A	・「初めてのことにチャレンジしたり、将来の夢や目標に向かって頑張ったりしていますか」で肯定的な回答をした児童が92%に対し、保護者は78%、教職員は79%で、これらも志を高める教育を意識した日々の教育実践が必要である。	A	・将来活躍する人間に育ってほしい。 ・人間力をアップするには、基礎強化が大きく、そのために国語、数学等の向上を望む。 ・チャレンジすることは、自己肯定感が低いとうまくいかない。認められ自信を持ち志を高めていく。	A	管理職 教務主任
		○特別支援に関する専門的な知識や支援方法が向上したと回答する教員を80%以上にする。	・夏季休業中の研修で、特別支援教育に関する知識や技能を学んだり、特別支援教育のコーディネーターの実践を共有したりする。	B	・夏季休業中に、教育相談と合わせて、特別支援教育の研修を行い、支援を必要とする児童理解を深めることができた。 ・今後、特別支援学級の授業参観が計画されている。	A	・特別支援教育の研修と特別支援学級参観を実施したことで、教職員の専門的知識や技能の向上は92%。保護者は78%で、地域を含めた啓発や情報発信が必要である。	A	・個別に応じた支援をしてもらったと思う。 ・差別のない明るい社会づくりに必要なことと思っています。	A	管理職 特別支援学級担任

<b>5 総合評価・次年度への展望</b>	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・昨年度の学校評価では、「特別支援教育の充実」「業務の効率化や及び分散化」等の項目が課題であったが、担当者任せではなく、校内研修や組織的な取組を行ったことで、概ね良好な達成状況である。</p> <p>・学力向上では、校内研究と合わせ深い学びの実現に向け、児童が学びを深めたことを実感できるように、振り返りの取組や授業づくりをしたことで昨年度よりも成果が見られたが、論理的思考力の育成に課題がある。</p> <p>・業務改善、教職員の働き方改革の推進については、年々成果が見られるようになったが、時間外勤務時間に個人差が見られる。来年度は更なる業務改善及び校務分掌の標準化に努めていく。</p>
-----------------------	---